



2 0 2 4

「建築の未来」

JIA四会議合同シンポジウム

建築を、永く使えるように機能・形・材料・細部まで心を込め、考えつくしてきちんとつくる

- ・クライアントと対話しながら、安全で使いやすく、かつ美しい建築を、心を込めてつくる
- ・土地の環境や気候に留意し、文化や歴史を尊重し、地域にふさわしい建築をつくる
- ・高性能でありながら、生涯を通して環境に対する負荷の少ない建築をつくる
- ・将来の変化を想定したフレキシブルな計画とし、更新・修繕しやすい材料・機器をえらぶ
- ・永い使用に耐えられるよう、建材の耐久性とその循環を含め、きめ細かく考えてつくる

建築をだいにする技と心を、ちいきやそこにくらす人々をだいにすることへつなぐ

- ・きちんとつくり、だいにつかわれる建築によって個性ある豊かなちいきができる
- ・個性ある豊かなちいきは、人々の多様な活動を受け止め、人と人をつなぐ
- ・ひとつの建築をつくるとき、まわりに広がるちいきのことも考えて、きちんとつくる
- ・街並みや景観など目に見える個性だけでなく、ちいきの環境や運営についてもよく考える
- ・建築からちいきへのつながりについて、教育に取り入れて皆で学び、人を育てる

Make with Heart

きちんと
つくる

Use with Care

だいに
つかう

Connect with Community

ちいき
へつなぐ

Recycle and Reuse

すてず
に
いかす

きちんとつくられた建築のなりたちを学びつつ、こまめに手を入れながらだいににつかう

- ・建築がどのようにきちんとつくられたかを知り、それを尊重して永くつかう
- ・経年変化する素材の特性を理解し、こまめに補修の手を入れながらつかう
- ・住み方や使い方の変化に合わせて改修するときも、きちんとつくる心得を受け継ぐ
- ・自然の道理と調和しながら、新しい技術を取り入れて、世代を超えて建築を使い続ける
- ・建築には必ず、取扱説明書やメンテナンス・マニュアルを備え、次世代へつないでいく

建築がやむをえず解体される時も、材料・部品の再利用・再資源化とともに、記憶も次世代につなぐ

- ・既存の建築はだいにつかい、丁寧にメンテナンスをし、できるだけ永くつかい続ける
- ・解体する建築の材料・部品は、ひとつひとつ再利用を検討し、次の建築にいかす
- ・建材として再利用できないものは、できるだけ再資源化して、次の役割にいかす
- ・材料・部品の再利用により、きちんとつくり、だいにつかうことの大切さを学ぶ
- ・すてずにいかすことで、建築の記憶とともに、人々の思いや文化を次世代につなぐ

JIA 4つの心得から考える「いつも」と「もしも」 能登半島地震から見えてきたこと

2021年、JIA環境会議、JIA保存再生会議、JIAまちづくり会議、JIA災害対策会議の4つの全国会議がSDGsをテーマとして議論を重ね、JIAはどのような活動を行っていくべきかを考えた、JIAの活動方針を提案しました。

この時に提案された4つの心得「きちんとつくる」「だいにつかう」「すてずにいかす」「ちいきへつなぐ」は建築家それぞれが描く理想的な未来像へ導くための行動につなげるためのキーワードであり、建築家の皆さんにとって気づきを与えてくれたものと思います。

2024年1月、令和6年能登半島地震が発災し、被災された方々への支援活動や復興活動に従事されている方や、これから起きるかもしれない災害に向けての備えを急がれる方など、それぞれの立場で活動されているひとも多いことと思います。そこで今回のシンポジウムでは、震災復興支援の場でJIA全国会議がどのような活動をしているのかなどの情報を共有し、このなかで、4つの心得がどのように作用しているのかを考える場を設け、さらなる未来へつなげていきたいと思っています。

日時：2024年10月18日（金曜）18:00～20:00

登壇：JIA 環境会議	内野輝明（議長）	所 千夏（JIA 近畿支部委員）
JIA 保存再生会議	金山真人（議長）	由田 徹（JIA 北陸支部委員）
JIA まちづくり会議	松島逸人（議長）	連 健夫（JIA 関東甲信越支部委員）
JIA 災害対策会議	水野 敦（議長）	古川 保（JIA 九州支部）

形式：オンラインによるウェビナー形式（参加無料 どなたでも参加できます）
事前にお申込みいただいた方にアドレスをお送りします。

申込：オンライン申込フォーム <https://x.gd/aXmfk> または QRコードより申し込んでください

定員：300名（先着順 CPD 2単位）

主催：JIA 環境会議 JIA 保存再生会議 JIA まちづくり会議 JIA 災害対策会議

